

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 2 2 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 2 2 原作シナリオ

1 スナック「香澄」店内(夜)

アヤカと香澄、数人の客のなかにスーツ姿の桐島がいる。

桐島「(アヤカに)最近、吉岡来てないんじゃないか」

アヤカのM「この人は香澄ママの元カレ。離婚して時々お店に来るようになりました」

アヤカ「お役所の仕事が忙しいのかな。いつもヒマそうなのに」

桐島「いまどきの公務員なめんなよ。あいつがヒマそうに見えるのは出世など望んでいないからだ。望んでいるのはホレ抜いた女の顔を毎日見ること」

別の客と談笑している香澄。

桐島「(そんな香澄を見て)オレも香澄のことは好きだが、あいつのマネはとてもしん」

そこへ血相を変えたドレス姿の美鈴が飛び込んできた。

美鈴「香澄ママ、大変よ！ 吉岡さんが公務員限定のお見合いパーティに行ったんだって！ 店に来たお役所の人が言ってた！」

香澄「……へえ、そうなんだ(と平静を装う)」

2 居酒屋「まわりみち」店内(別の日の夜)

カウンターに吉岡がいる。

末吉「ウーロンハイの焼酎抜き、お待ち……吉岡さん、婚活しとるそうやな」

吉岡「トオル君がああ若さで亡くなった。そういやオレ、若くして死んだ親父の年を越えてんだよな。オレだって明日死ぬかもしれん。おふくろに孫の顔でも見せてやろうかと思ってさ」

末吉「香澄ママには話したんか」

吉岡「婚活の話で気を引くほど、安い男じゃないよ」

3 桜満開の兼六園(日曜の昼)

デート服で歩いてくる吉岡と20代の女・萌。

楽しそうに談笑している二人。

4 スナック「香澄」店内(別の日の夜)

アヤカと香澄、客のなかに同伴で来店した美鈴がいる。

美鈴「吉岡さんの婚活、その後どうなの？」

同伴客「順調らしいな。相手の子がずいぶん積極的だそうだ」

美鈴「香澄ママ、ほっといいいの？ このままじゃ吉岡さん、猛禽女子に取られちゃうよ」

香澄「(来店した客にボトルを出しながら)やめてよ美鈴ちゃん。あたしが横から口を出せるわけないでしょ」

客「(香澄に)ママ、これはオレのボトルじゃないよ」

香澄「あ、ごめんなさい……(慌ててボトルを取り替える)」

そんな香澄を見つめているアヤカ。

アヤカのM「こんなに動揺してる香澄ママ、初めて見ました」

#5 片町スクランブル交差点(別の日の夜)

#6 スナック「香澄」店内

香澄が開店の準備をしている。

ドアを開けて、誰かが入ってきた。

香澄「(掃除などをしながら)アヤカちゃん、お店開ける前にちょっとお使いお願い」

香澄が顔を上げると、萌が立っていた。

萌「吉岡さんと交際してる萌といいます」

香澄「……あたしに何かご用？」

萌「あたしたちの結婚式のスピーチをお願いしに来ました」

香澄「えっ」

萌「吉岡さんはずっと香澄さんのことが好きだったんですね。あたし、いまは勝てないかもしれないけど、いつか必ず香澄さんに勝ちます！」

香澄「(動揺を抑えて凜とした表情で一礼し)ご結婚おめでとうございます。あたしでよければ、結婚式のスピーチ、謹んでお引き受けします」

萌「……よかった」

香澄「ずいぶん早く結婚が決まったのね」

萌「(舌を出して)実はまだ、吉岡さんからプロポーズされてないんですけどね。もし結婚が決まったら、スピーチして下さい(と頭を下げる)」

香澄「(クスッと笑い)開店前だけど一杯飲んでいく？」

#7 吉岡の部屋(夜)

吉岡がDVDを観ている。

吉岡のM「夢は映画監督になることだった。でも親父の死後、女手一つで育ててくれた母ちゃんのため、オレは公務員になった。そのことは少しも後悔していない。なぜなら……」

#8 テレビの画面

バスケをしている香澄、文化際の模擬店で売り子をする香澄、通学途中の香澄……高校時代のさまざまな香澄が映し出されている。

#9 高校時代の吉岡(回想)

校舎の隅や廊下、通学路の物陰からカメラを抱えた吉岡が香澄を撮影している。

吉岡のM「オレはすでに生涯最高の傑作を撮ったから！」

#10 もとの部屋

吉岡の母が入ってきて、慌ててテレビのスイッチを切る吉岡。

母「どっこいしょ……(と、腰をおろし)今日も疲れたわ！」

吉岡「そろそろ掃除の仕事やめろよ。母ちゃんの面倒ぐらいオレが見てやる」

母「じまんらしいことを。働かざる者食うべからずや」

× ×

インサート。

吉岡のM「子どものころ、母子家庭のオレんちは貧乏だったけど、母ちゃんはいつも笑ってた。

そんな母ちゃんにオレはどれだけ救われただろう」

姉さん被りの作業着姿でビルの清掃をしている吉岡の母。

小学生の吉岡と母の質素な食卓。母が磊落に笑いながら食事をしている。

× ×

母「見合いの子とはどうするつもりや？」

吉岡「相手の子がOKしてくれるなら結婚しようと思ってる」

母「タカオには好きな女がいるやろ」

吉岡「うん……でもスナックのママなんだ。母ちゃん、嫌やろ」

母「だらなこと言うな。スナックのママがどうした。母ちゃんだってもう少し器量がよけりゃ、父さんが死んだ後、お水やってタカオを育てたわ」

吉岡「……」

母「タカオは昔、母ちゃんのために映画監督の夢をあきらめた……その上、好きな女もあきらめるんか。母ちゃんのために夢を2つともあきらめたら承知せんぞ。タカオがやりたいことやるんが母ちゃん一番うれしいんや(腰を上げ、部屋を出て行く)」

吉岡「(こみ上げて)母ちゃん……」

#11 スナック「香澄」店内(別の日の夜)

香澄とアヤカ、客に桐島がいる。

桐島「(香澄に)吉岡にメールしろよ、香澄。営業メール出すのも仕事だろ」

香澄「あたしは去る者は追わない主義なの……」

そこへドアが開いて、吉岡が入ってきた。

吉岡「ウーロンハイ、焼酎抜きで！ 一日の終わりに香澄の顔見ないと、どうも落ち着かなくて(と座る)」

桐島「(吉岡に)婚活してたんじゃないのか」

吉岡「残念ながらフラれちゃいましたよ」

桐島「ライバルが一人減ると思ってたのに」

吉岡「桐島先輩こそ早く再婚して下さいよ、香澄以外の女と」

桐島「何を」

にらみ合って火花を散らす吉岡と桐島。

グラスにウーロン茶を注ぎながら、吉岡と桐島に見えないように微笑む香澄。

その横顔を見ているアヤカ。

アヤカのM「良かったですね、香澄ママ！」